東京都立大学大学院 人間健康科学研究科

看護科学域

看護学：サイエンスとアートの創造

看護科学域の理念は、大都市で生活する人々の「健康」をテーマとし、看護学の研究・教育を通じて個人と集団の「健康」に寄与し、生活の質の向上と活力ある長寿社会の実現を目指すことです。目的は、①看護学の探究、②看護学の教育者・研究者の育成、③高度実践専門家の育成の３点です。

本学域の特色は、大都市で生活する人々の「健康」をテーマとする点です。特に、看護倫理に関する高度な専門的知識の教授と判断能力の育成、地域及び医療施設でのあらゆる発達段階にある人々へのケアに関する理論と方法の開発、行政と連携したケアシステムの開発を行う能力の育成を目指しています。

博士前期課程では、看護倫理・管理学分野、リプロダクティブヘルス看護学分野、小児看護学分野、成人看護学分野、療養生活支援看護学分野、地域精神看護学分野、在宅看護学分野、国際看護／医療人類学分野、公衆衛生看護学分野、助産学分野のうち、いずれかの分野で専門性を高め、修士論文を作成します。なお、小児看護学分野、成人看護学分野には、専門看護師（Certified Nurse Specialist: CNS）コースがあり、高度実践看護師を目指す人材を育成しています。博士後期課程では、研究者、教育者として看護科学の発展に寄与し、保健医療・福祉の分野でリーダーとなる人材を育成しています。

分野	主な内容
看護倫理・管理学	実践における倫理的諸課題および「質の保証」を可能にする看護提供システム等について総合的に研究する。
リプロダクティブヘルス看護学	リプロダクティブヘルス看護学領域について理論・方法論を総合的に研究する。
小児看護学 **（小児看護学分野CNSコースを含む）**	小児看護や小児保健領域について理論・方法論を総合的に研究する。
成人看護学 **（成人看護学分野慢性看護学CNSコースを含む）**	成人とその家族の健康課題等について理論・方法論を総合的に研究する。
療養生活支援看護学	療養や生活における人々の健康課題について、その支援方法や看護、社会システムについて探求する。
地域精神看護学	地域精神保健問題等について理論・方法論を総合的に研究する。
在宅看護学	在宅看護・地域ケアシステムについて理論・方法論を総合的に研究する。
国際看護／医療人類学	医療人類学的視点を用いながら国内外の看護/医療の対象者を様々な視点から研究する。
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学について理論・方法論を総合的に研究する。
助産学	助産学領域について理論・方法論を総合的に研究する。

＜研究コース＞

大都市で生活する人々及び地域の「健康」をテーマとし幅広い視野を持ち、看護学の研究・教育を通じて個人と集団の「健康」に寄与し、国際的に通用する領域を切り開くことができる研究者・教育者を育成するコースです。

それぞれの専門分野で看護学を探求し、以下の能力を身につけます。

- 大都市に生活する人々の健康問題を論理的に分析でき、倫理的判断や社会的ニーズに応じたケア開発を行う能力
- 研究課題に関連する諸理念、理論、研究方法を学修し、課題解決のプロセス及び看護実践と評価方法を探求し、その成果を研究として論述する能力
- 国際的・学際的な交流をはかるためのコミュニケーション能力

人間健康科学専攻看護科学域博士前期課程に2年以上在籍し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文を提出し、学位論文審査および最終試験に合格することが修了要件です。

＜専門看護師（CNS）コース＞

高度な知識と技術をもち高度実践専門家としてリーダーシップを発揮し、新たな看護ケア・看護システムを創出することができる高度実践看護師を目指す人材を育成するコースです。

小児看護学分野CNSコース、成人看護学分野慢性看護学CNSコースでは、以下の能力を身につけます。

- 専門分野において、個人・家族または集団に対してケアとキュアを統合した高度な看護を実践する能力
- 専門分野において、看護職者に対してケアを向上させるための教育的機能を果たす能力
- 専門分野において、看護職者を含むケア提供者に対してコンサルテーションを行う能力
- 専門分野において、必要なケアが円滑に提供されるために、保健医療福祉に携わる人々の間のコーディネーションを行う能力
- 専門看護分野において、専門知識・技術の向上や開発を図るために実践の場における研究活動を行う能力
- 専門看護分野において、倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理的調整を行う能力

人間健康科学専攻看護科学域博士前期課程に2年以上在籍し、所定の授業科目について46単位以上を修得し、さらに特定の課題についての修士論文を提出し、学位論文審査および最終試験に合格することが修了要件です。

看護倫理・管理学

習田明裕　國江慶子

看護倫理学

看護は「人」を対象とする実践の科学であり、人間を尊重すること、つまり人権を尊重することが、看護が看護たり得る基盤となる重要な理念です。看護倫理学研究室では、こうした理念のもと、医療現場が抱える様々な倫理的課題、例えば高度先進医療における「インフォームドコンセント」の問題、患者の安全を守るという名目で行われてきた「身体拘束」の問題、療養の環境が施設から在宅へとシフトする中で生じてきた「訪問看護師の葛藤」など、その実態を探るとともに、看護職としてどう対応していけばいいのか探求してきました。

現在は主に、臓器移植、特に健康な人から臓器提供を受ける生体移植や、脳死移植現場における看護職の倫理的葛藤について、看護の視点から研究を進めています。

研究テーマ
- ○ 臓器移植看護における看護師の役割・機能に関する研究
- ○ 看護職が直面する倫理的課題の探索およびその対応
  （移植看護、手術看護、ICU 看護、救命救急看護、認知症看護、他）
- ○ 利用者の尊厳や権利を尊重するケアの方法及びシステムの開発
- ○ 卒前・卒後の倫理教育に関する研究･･･など

看護管理学

看護管理学とは、人々の今と未来の健康と幸せのため、看護を効果的に届ける仕組みと方法を追求する学問です。看護管理学は、実社会で活用され役立つことを目指す実学の側面もあります。そのため、変化する社会や人々のニーズや価値を捉え向き合い続けながら、知を創出・発展することが求められます。看護管理学研究室では、広い視点で現象を捉え、看護管理に関わる理論や法則に向けた知と、看護管理実践の場で有用な知の探求と創出に向け、研究を行います。

創出された知を、経営学・心理学などの多様で学際的なマネジメントの知とともに、看護管理実践に効果的に適用し、実践できる力や環境を醸成することも必要です。多様な知を活かす力を互いに高め合うことができるよう研究活動を進めてまいります。

研究テーマ
- ○ 効果的な組織運営・看護管理実践に関する研究
- ○ 看護組織の事象、組織構成員の組織での体験に関する研究
- ○ 看護管理における外部支援・ネットワークに関する研究
- ○ 職員や組織がもつ力の可視化・拡大に関する研究
- ○ 職員が持つ力を発揮できる職場づくりに関する研究
- ○ その他看護管理に関する研究･･･など

リプロダクティブヘルス看護学

木村　千里・園部　真美

リプロダクティブヘルス（性と生殖に関する健康）を基盤概念とし、思春期・成熟期・更年期・老年期など各ライフステージにおける女性と家族の健康支援に関する理論・最新の知見・技術を学び、女性の生涯を通じた健康課題に対する看護支援を探究するための研究手法を学びます。また、マターナルステージにある女性と家族の well- being や育成期の親子の関係性を評価・促進する包括的なトレーニングを受ける機会を提供します。これらの活動を通じて、母子ケアとウィメンズヘルスの領域で活動する研究者がともに研鑽する場を醸成します。さらに、女性と家族の健康を改善するための支援の向上や政策に還元されるような研究成果の公表を支援します。

博士前期課程では、すでに学士課程で学んだ看護師や助産師が理論と実践を統合できる講義やフィールドワークを通じて修士論文を執筆し、知識やエビデンスを生み出し、普及することを奨励しています。博士後期課程では独立して研究プロジェクトを実施し、国内および国際的なレベルでリプロダクティブヘルスに関連する課題を取り扱う能力を持つ高度な資質を持つ研究者を育成することを目標としています。

子育て支援ルーム：カンガルーの部屋

育成期の家族の支援

最近の研究テーマ

- Antenatal/Postnatal Promotional Guide を用いた地域母子支援活動
- 親子の関係性を重視した観察法 Infant CARE-Index に基づく虐待予防・育児支援システム
- 産後プロモーショナルガイドを用いた家庭訪問母子支援プログラムの実践と評価
- 健康上の問題をもつ周産期、育児期の女性に対する支援と評価
- 母乳育児支援と健康教育
- 育成期の困難家族の支援
- 児童と家族に対する生と性の教育

小児看護学

山本美智代

小児看護学領域では
子どもと家族への看護の質を高めることを目指しています

博士前期課程

＜小児看護専門看護師（CNS）コース＞

小児看護専門看護師として、子どもが病気や障害をもつことによって生じる子どもと家族の変化に寄り添い支援するために、講義やゼミのみならず、実際に小児看護専門看護師の指導のもとで実習を行い、より実践に応用できる知識と技術を学びます。

＜論文コース＞

小児看護学領域で重要と考えられる概念や理論を理解します。また、子どもの発達や健康に関する課題とその影響について家族を含めて捉え、査定をする技術、方略を学びます。さらに、小児看護学における研究の動向と課題を明らかにしたうえで、研究に取り組みます。

博士後期課程

小児看護学における研究の動向と重要課題について、文献レビューやフィールドワークを通して明らかにしたうえで、研究対象となっている子どもや家族が生きる日常を、対象となっている人々の視点から理解し、その人々の社会的な背景や基盤を理解します。その上で、看護実践の質の向上、看護学の発展に寄与できるような研究に取り組みます。

最近の研究テーマ

- 障がいのある子どもの家族への看護
- 病気や障害のある子どものきょうだいの成長に関する研究
- 災害時における在宅障害児の直面する問題とその防止に関する研究
- 福祉サービスを利用する家族の支援

小児看護学領域 HP　https://ped-ns.fpark.tmu.ac.jp/index.html

成人看護学

西村　ユミ・福井　里美

成人看護学領域（前期課程・後期課程）では

成人期にある人々やその家族への看護実践のあり方を捉え直し、

新たな視点や方法を創造していくことをめざします。

成人看護学領域では、より良い看護実践を実現するために、病いを患う人々の経験を探究しています。

人々は、生活をしながら、病院や施設などで治療を受けたり療養をしたりしています。その経過の中で、同じような病い経験をした者が集まって患者会・家族会を作ったり、生活の知恵を交換し合ったりもしています。研究科の授業や演習では、こうした経験や営みを理解して援助を行うための思想や理論、方法論について検討します。

他方で、看護師の側の経験や実践の探究を進め、看護の「実践知」について検討しています。

自分自身がいかに実践や経験をしているのかについて、自覚したり言語化したりすることは難しいものです。

成人看護学領域では、授業や演習での議論、文献レビューや調査などを通して、自分のものの見方や実践の仕方を捉え直し、そのうえで、看護実践の新たな見方や技術を創造することをめざします。さらに、こうした知恵や技術を“継承”していくための方法論について検討します。

これらの検討をもとに、各自が研究課題に取り組み、看護実践現場での問題解決能力、教育、指導力の向上を目指します。さらに、成人看護学の新たな知恵を創造します。

2024 年度より博士前期課程に、慢性看護学（CNS）コースを開設しました

受講生が専門とするがん、心疾患、脳卒中、生活習慣病、難病、外傷による後遺症など様々な疾患の、発症期、回復期、増悪期、維持期、終末期など長い闘病生活を見据えたケアの実践力を身につけることを目指します。疾患に対して、症状緩和ケア、リハビリテーション、サバイバーシップの3つの柱で、専門性を高めるべく、知識と問題解決力、コミュニケーション力を養う討議を重ね、課題研究に挑みます。

【成人看護学領域の教員・大学院生の研究テーマ】

- ◆ 遷延性意識障害患者への看護実践の現象学的研究
- ◆ 救命救急センターの部署を超えて重なり合う看護師たちの実践
- ◆ 急性期病棟において意思疎通困難な患者に関わる看護師の実践の成り立ち
- ◆ 手術中における手術室看護師の実践の成り立ち
- ◆ 膠原病患者と関わる看護師の経験
- ◆ 妊娠・出産する女性と助産師との関係の成り立ち
- ◆ 急性期病院の協働実践の現象学的研究
- ◆ 急性期看護場面の実践知に関する現象学的研究
- ◆ がんサバイバーへの心理社会的支援の実践研究
- ◆ がん治療をうける親が増加する中高生のがんの知識
- ◆ 外来がん薬物療法を選択した高齢者の生活経験
- ◆ がん終末期看護のやりがい感

療養生活支援看護学

小野若菜子

療養生活支援看護学では、療養や生活における人々の健康課題について、その人の暮らしや歴史、健康と疾病、療養と介護、人生の終焉と看取りの観点を踏まえ、その支援方法や看護、社会システムについて探求します。

高齢社会において、「活力ある長寿社会」を実現するために、その人の健康と生活を支え、看護を発展させる新たな「知」の創造をめざす研究者・教育者の育成に取り組みます。

大学院では、国内外の文献を精読し、プレゼンテーションや意見交換を通して、課題や現状、エビデンスの分析をします。そして、自らの研究テーマの焦点を深め、調査を進めます。

これらの研究活動を通して、療養生活支援への貢献を目指します。

◆近年の大学院生の研究テーマ

・認知症者とその家族の QOL・健康に関する研究
・がん患者とその家族の QOL 維持向上を目指した心理介入効果

◆研究活動

・看護職が行うグリーフケア、エンドオブライフケア
・在宅終末期ケアにおける看護職・介護職・介護支援専門員の連携
・死別を支える地域コミュニティの育成
・地域包括支援センターにおける死別サポート
・地域包括支援センターにおける倫理的課題と倫理的環境
・災害時の公衆衛生看護、健康課題としての放射線防護

◆教育活動

・学部：高齢者看護学、災害看護学、エンドオブライフケア論、等
・大学院：療養生活支援看護学

◆社会活動

・地域への市民参加型グリーフカフェの活動に参加しています。
・日本在宅看護学会副理事長，日本エンドオブライフケア学会理事，日本在宅ケア学会編集委員として，その他、学術集会の企画・運営等の学会活動に携わってきました。
・グリーフケア、エンドオブライフケアに関する市民向け講座、専門職向け講座の講師をしています。

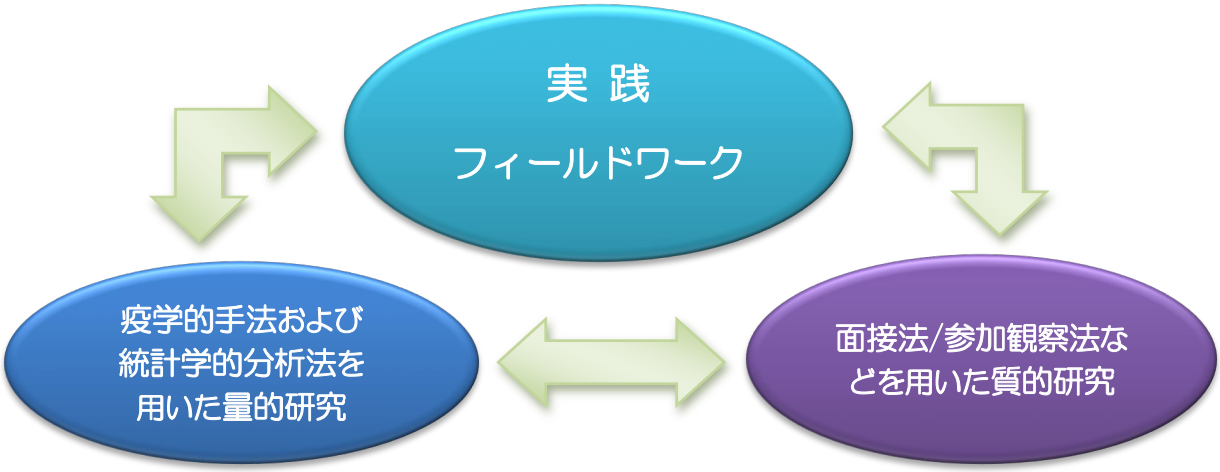
地域精神看護学

山下 真裕子・神澤 尚利・川添 美花

精神看護学は、乳幼児から高齢者まで、精神障害の有無、さらには場のいかんにかかわらず、メンタルヘルス上の悩みや生きにくさを抱えた方々やご家族および関係者など、多様な個人や集団を対象としています。

そうした幅広い対象を理解し支援するために、一方では脳神経科学などの最新知識から、他方では人々の日々のやりとりまで、さまざまな情報を活用していきます。精神看護学がめざすのは、まさに全人的アプローチなのです。

またこのような知は、対象を理解するだけでなく、看護を提供する側の問題にも目を向け、自ら成長していくためにも生かされます。互いに切磋琢磨していきましょう。



最近の研究テーマ（学位論文テーマ含む）

- 地域で生活する精神障害者のセルフケア理論に関する研究
- 精神障害者の新たな雇用システムの構築
- うつ病患者への再発予防に関する研究
- 訪問看護を活用した自殺予防支援プログラムの開発
- 地域で暮らす統合失調症を抱える人の就労に対する意識
- 精神科急性期治療病棟における患者の退院後の生活を意識したケアを実践する看護師の態度
- 中小規模の事業場におけるアルコール使用障害の実態とその重症度と関連のある因子の検討
- 統合失調症を持つ女性の妊娠・出産の経験
- 精神障害を抱える親を持つ子どもへの訪問看護師による支援に関する研究
- 精神健康上の問題を持つ人のきょうだいの経験に関する研究

※ 当方のゼミは希望があれば院生以外でも参加可能です。詳細は HP をご覧ください
https://seishinlab.fpark.tmu.ac.jp/about/

在宅看護学

島田　恵・岡本　有子

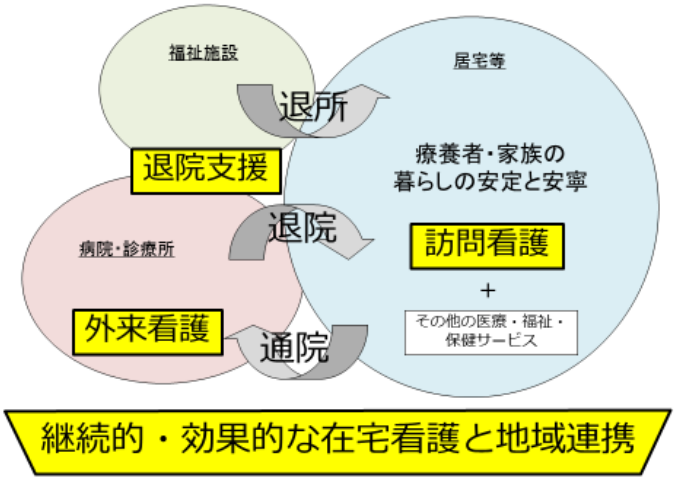
在宅看護学領域では、「退院支援」「訪問看護」「外来看護」を 3 つの柱に（下図）、地域ケアシステム・在宅看護分野の課題に関連する諸理念、理論、研究方法を学習し、課題解決のプロセス及び実践と評価方法についても探求し、その成果を研究としてまとめる能力を育成します。

●博士前期課程

関心ある現象について概念（変数）を特定し、データ収集の方法、分析方法の基礎を学びます。次に特別研究で取り組むテーマについて国内外の研究の動向、理論および主要概念、研究方法について文献レビュー、実地踏査を行う演習形式を組んでいます。

●博士後期課程

学生が志向する地域ケアシステム・在宅看護分野の課題分析及び看護介入の方法論の開発にむけた能力をフィールドワークを通して養います。



＜教員の研究テーマ＞

島田 恵（准教授）

1) HIV/AIDS 外来看護の再構築と有効性の検討　科研(C)
2) 地域包括ケアにおける外来看護の機能と役割

岡本有子（准教授）

1) がん末期患者と家族への専門看護師主導型地域包括ケアプログラムの臨床的有用性の検証
2) 看護学生のための訪問看護シミュレーション教育：教材の開発

＜修了生の論文テーマ＞

博士論文

・足病変のケアを目的とした訪問看護師の療養者との関わり

修士論文

・医療的ケア児の母親の在宅移行に向けた退院支援を受ける経験 -在宅移行後の母親へのインタビューから-
・軽症血友病患者の病気をもって生きる思い
・外来化学療法を受ける再発がん患者に対する訪問看護師と病院看護師の連携の実践と在宅療養や訪問看護への影響
・症状排泄高齢者の排便援助の実態及び継続可能な排便習慣の判断に至る関連要因-在宅で計画的に浣腸や摘便を実施している事例と実施していない事例との比較-
・病院勤務経験のある新任訪問看護師の戸惑い
・在宅 ALS 療養者の人工呼吸器装着に関する意思決定を支援する訪問看護師への管理者の関わり
・医療的ケアを必要とする子どもの体調の変化に初めて直面した母親の判断に関する研究
・外来患者の主体的な受療継続を支援する専門性の高い外来看護師の実践
・人生の終末期の生き方の意思決定の特徴と関連する要因
・HIV/AIDS 看護を専門とする外来看護師による受診継続支援を HIV/AIDS 患者はどのように認識しているか -受診中断歴のある HIV/AIDS 患者へのインタビューを通して-

国際看護/医療人類学

野村亜由美

看護における医療人類学の位置づけ

1．看護系大学では、学部の一般教養の選択科目として「医療人類学」を開講しているところはありますが、大学院教育で看護教員が「医療人類学」を教えるのは本学が初めてだと思います。

2．「医療人類学」は対象となる国や人びとの「人間」「健康」「病気」「医療」について多角的に学ぶ学問領域であるため、「国際看護」と親和性の強い基礎看護系の領域です。自分とは異なる文化の人たちの病気観や治療行動が、その人たちが暮らす文化的/社会的背景とどのように結びついているのかを理解し、看護/医療の対象となる人びとが抱えている問題はなにか？健康状態が改善しないのはなぜか？健康状態や生活がより良く改善するにはどのような関わりが必要か？なにが人びとの間で問題になっているのか？などについて考えます。

3．「医療人類学」を学びたいと思う人は、国際協力で海外から帰国したボランティア経験者や、海外の医療に関心がある看護師が多いと思います。学部で「文化人類学」の基礎知識を学んでいないので、「医療人類学」を学ぶことは難しいと思うかも知れませんが、医療人類学も看護学も「人間とはなにか？」について探求する学問という意味では共通しています。

4．本コースでは、医療人類学の基礎知識をまなびながら、日本国内のみならず、途上国における医療問題や健康問題を、フィールドワークを通して現地の人とともに考え、彼らの健康状態の改善に向けた取り組みについて考察し、将来的にグローバルな場で活躍できる専門職者の育成を目指します。

公衆衛生看護学

斉藤　恵美子　　呉　珠響　　縞谷　絵理

■分野の目指すもの

保健師の実践に関連する領域のため、大学院では、保健所等の行政機関や企業、地域包括支援センター、病院などで様々な実践経験を積んだ学生や、現場の保健師も社会人学生として学んでいます。探求したいテーマをもって、日頃の実践を向上しようと考えている看護職の方々の、主体的な研究活動を支援したいと考えています。

■分野の教育内容

公衆衛生看護学は、個人や家族、地域全体の健康と生活の質の向上に寄与する実践に役立つ科学です。地域で生活している人々とその家族や、様々なつながりをもった人々の集団を対象としています。

1. 博士前期課程での目標

1) 公衆衛生看護学の理論、実践、研究による最新の知見を評価する。
2) 公衆衛生看護学の知見としての研究を実施する。
3) 多様で多文化的な集団を対象として、根拠に基づく公衆衛生看護実践の適用を評価する。
4) 研究に関する倫理的課題と責務について、明確に述べる。
5) 健康を促進するためのリーダーシップの方法を身につける。

2. 博士後期課程での目標

公衆衛生看護学の実践と教育の科学的根拠について追求し、前進させる能力を養う。

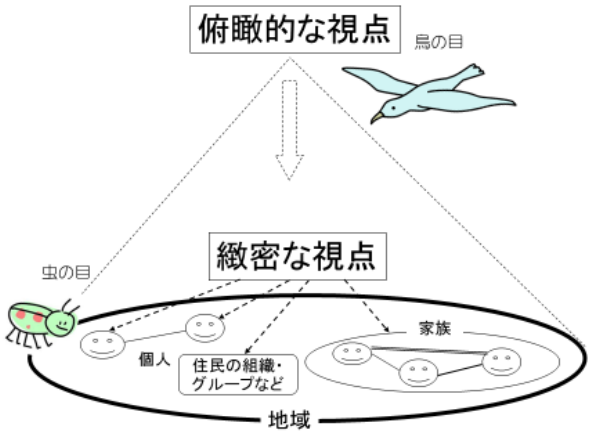


図　地域をみる：鳥の目と虫の目

斉藤恵美子、(2014)、第1章公衆衛生看護実践と技術の特徴、佐伯和子(責任編集)、公衆衛生看護技術(pp. 8)、医歯薬出版株式会社.

■大学院生の研究テーマの例

1. 修士論文

・要保護児童対策地域協議会に登録された乳児の虐待予防のための支援過程での保健師の状況判断－質的記述的研究
・幼児の母親がインターネット上の健康情報を活用するためのヘルスリテラシーの特徴：eヘルスリテラシー得点別の比較
・新型コロナウイルス感染拡大に伴う子育て世代包括支援センター看護職の個別支援の困難さの特徴
・陸上自衛官の職場環境、健康意識と社会的ニコチン依存の関連
・身体的障害等のある人を対象としたスポーツ教室参加者の参加前後の自己効力感の変化

2. 博士論文

・産業看護職の事業策定の経験の有無と関連する要因：職場におけるメンタルヘルス対策の一次予防に焦点をあてて
・多様なエスニックの視点からの高齢者の保健サービス利用に関連する要因：中国帰国者、定住コリアンを対象として
・産科医療機関における虐待発生予防にむけた看護実践自己評価尺度の開発

※教育・研究活動の詳細は、以下のホームページをご覧ください。

公衆衛生看護学分野ホームページ：https://phn.fpark.tmu.ac.jp/index.html

助産学

安達　久美子・菱沼　由梨

●助産学の研究コースです（助産師の資格取得のためのコースではありません）。

●周産期及び、女性の生涯全般を通しての女性とその家族の健康に関する幅広い課題に取り組んでいます。学生は、助産師の経験の中で、様々なリサーチクエスチョンを持ち、女性とその家族により良い助産ケアが提供できることを目標に研究に取り組んでいます。

●ヨーロッパ、北米、中国、ネパール、モンゴル、ベトナムなど、海外の研究者、助産師との交流をしてきています。

これまでの学生の研究テーマ【抜粋】

□オンラインを活用した夫婦の育児協同支援プログラムの開発及び効果の検証

■シングルマザーの親のアイデンティティモデルの構築

□新生児に対する舌マッサージの効果の検討

■助産師のワーク・エンゲージメント

□妊娠中から特別要支援組に児を託すことを考える実母への意思決定支援

■硬膜外麻酔分娩および自然分娩で出産した産婦の主観的満足度に影響する要因

□硬膜外麻酔分娩第２期の肛門哆開と胎児下降度の関連 ： 自然分娩との比較

修了生の活躍

　修了生は、看護系大学の教員として、病院の助産師の管理職や助産師として活躍しています。

助産学領域教員スタッフ：教授　安達久美子　准教授　菱沼由梨　助教　巌　千晶

●教員及び分野

看護科学域　博士前期課程			
分野	指導教員		メールアドレス
看護倫理・管理学	教授	習田　明裕	shuda@tmu.ac.jp
	准教授	國江　慶子	keikokunie@tmu.ac.jp
リプロダクティブヘルス看護学	教授	木村　千里	ckimura@tmu.ac.jp
	准教授	園部　真美	sonobe@tmu.ac.jp
小児看護学 （小児看護学分野CNSコースを含む）	教授	山本　美智代	ymichiyo@tmu.ac.jp
成人看護学 （成人看護学分野慢性看護学CNSコースを含む）	教授	西村　ユミ	yumin@tmu.ac.jp
	教授	福井　里美	satomif@tmu.ac.jp
療養生活支援看護学	教授	小野　若菜子	wakaono-96@tmu.ac.jp
地域精神看護学	教授	山下　真裕子	ymayuko@tmu.ac.jp
在宅看護学	准教授	島田　恵	megumi@tmu.ac.jp
	准教授	岡本　有子	yokamoto-hs@tmu.ac.jp
国際看護／医療人類学	准教授	野村　亜由美	ayumin@tmu.ac.jp
公衆衛生看護学	教授	斉藤　恵美子	saito@tmu.ac.jp
助産学 （助産師資格取得のコースではありません）	教授	安達　久美子	mwadachi@tmu.ac.jp
	准教授	菱沼　由梨	yuri_hs@tmu.ac.jp

看護科学域　博士後期課程			
分野	指導教員		メールアドレス
看護倫理・管理学	教授	習田　明裕	shuda@tmu.ac.jp
リプロダクティブヘルス看護学	教授	木村　千里	ckimura@tmu.ac.jp
小児看護学	教授	山本　美智代	ymichiyo@tmu.ac.jp
成人看護学	教授	西村　ユミ	yumin@tmu.ac.jp
	教授	福井　里美	satomif@tmu.ac.jp
療養生活支援看護学	教授	小野　若菜子	wakaono-96@tmu.ac.jp
地域精神看護学	教授	山下　真裕子	ymayuko@tmu.ac.jp
公衆衛生看護学	教授	斉藤　恵美子	saito@tmu.ac.jp
助産学	教授	安達　久美子	mwadachi@tmu.ac.jp
	准教授	菱沼　由梨	yuri_hs@tmu.ac.jp